



新板  
經入

南本秀日記

四之卷

特別  
A13  
4434  
4



113  
4434  
4

南本養白記

口之卷

杏本藏書

目録

第一

世の流の流転ひね小くはる房御

思ひわす割符小名家出は忠臣

病入る花の歌移りまゝなる藤原

目之ねまははるは舞あはれの詩

美之中西



第二

双方見合と沖のりな板船と用カ

丸裸の武芸風信るるの射子膳子

葉がたは思葉のくどれ葉

う返るるに十八子れ板船

第三 人の公試耕と柳新のま婦合

年うりの色はくはとをね

こまゆまはまあへまぶい葉人

女たうふい葉はめく鑓の穂さ

第一 忍海の張粒ひ松小かば着房

牡丹の宮清位はゆとぬひ九十九代の香まに信

民の重し明ふ流る雲弁のま鹿かまをまやい福倉

の此ぬる敷もあうねるる射入乃をままわとひそ

くふふ屋と人よに合るるゆあし万里小海を屋

一子中細え着房のまびくにのり小もせあふ張と

田舎まひひ小おえあふ一板け楊をまま小こ

つるぬる初申のまのりまけ割着まのま信あのみ

見えまあるとまのり門ままかこまう。口入る

長谷川

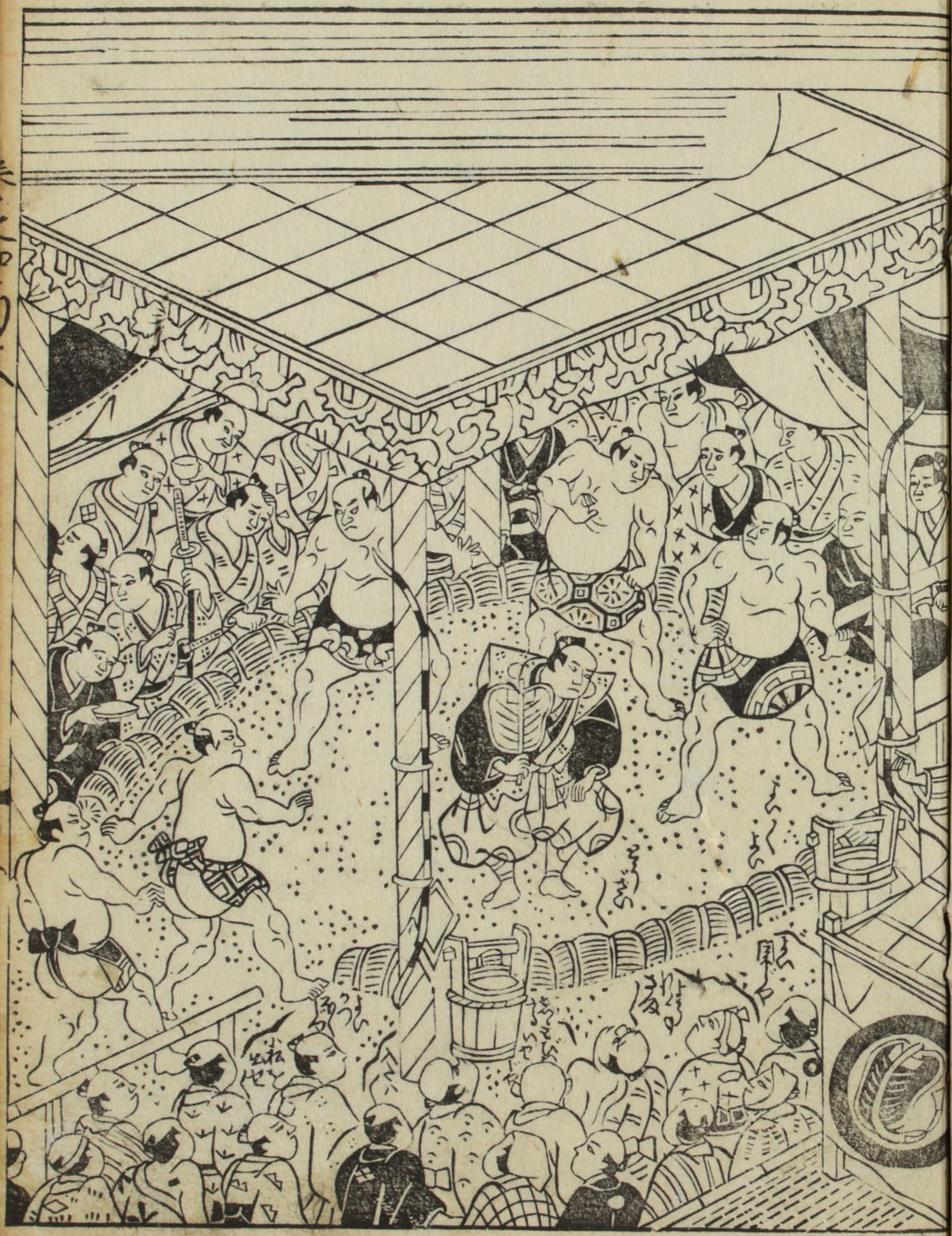
正一、みり出願とさげ、さく難守中をせんじゆ  
より、割着は持来、あまのつばにのり、後房は、さくは、ま  
か、か、かんぎん小相本、さく、後房、さく、つ、小糸家乃  
お、り、目、に、毛、し、我、君、い、ま、さ、び、ん、の、ま、と、新、と、ま、き、  
さ、り、が、妹、様、ま、と、沖、籠、愛、の、ま、り、高、町、見、ね、ま、  
小、あ、と、さ、き、ち、や、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、  
小、一、下、取、つ、さ、り、め、り、め、さ、い、め、り、め、さ、か、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、  
小、君、公、の、跡、く、お、り、ひ、ね、い、格、お、の、幸、い、づ、ま、り、後、念、之、  
ま、り、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、  
橋、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、  
め、り、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、  
伊、織、と、い、う、の、ま、と、若、枝、た、付、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、  
供、系、任、之、掃、法、法、を、P、信、と、結、細、の、町、さ、く、さ、く、  
一、間、人、伊、織、を、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、  
の、沖、公、と、や、と、め、ん、と、掃、あ、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、  
さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、  
さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、  
常、盤、後、に、守、小、海、一、後、念、之、ま、と、一、和、相、換、入、乃  
が、内、任、事、一、つ、め、り、誰、あ、り、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、  
日、の、橋、ま、と、通、進、一、こ、つ、辨、め、さ、く、さ、く、さ、く、  
あ、り、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、  
つ、さ、く、一、心、通、の、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、  
お、り、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、  
所、の、ま、と、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、  
入、乃、を、恨、旗、を、さ、く、さ、く、

供系任之掃法法をP信と結細の町さくさく  
一間人伊織をさくさくさくさくさくさく  
の沖公とやとめんと掃あさくさくさく  
さくさくさくさくさくさくさくさく  
さくさくさくさくさくさくさく  
常盤後に守小海一後念之まと一和相換入乃  
が内任事一つめり誰ありさくさくさく  
日の橋まと通進一こつ辨めさくさくさく  
ありさくさくさくさくさくさく  
つさく一心通のさくさくさく  
おりさくさくさくさくさく  
所のまとさくさくさく  
入乃を恨旗をさくさく

赤坂の町

一〇三







このそとに、乙卯年の時、謀討とてゆりし。  
 今この奇謀多勢を頼むるや、くいと号する事は  
 ん、いふか。何ぞ能謀りとおひめが。ひらのの  
 ままを編み、さうり。知進相模を、細相模、ま  
 さり、村めく、奥りし。透を、さうり、後討、おんがり  
 ん。不意と、さうり、女、相模も、一戦、おんがに、打  
 負、腹を、さうり、又、さうり、百人、と、さうり、の、故、さうり、  
 ち、ゆり、は、逃、く、む、を、さうり、要害、さうり、あ、ん、の、知、さうり、  
 幸、は、候、い、く、と、相、模、さうり、い、つ、き、を、た、と、ほ、か、し、て、  
 さ、わ、い、相、模、の、用、え、さうり、んと、下、帯、い、く、解、り、傳、つ、を、  
 相、模、報、陳、さうり、と、ア、ヤ、相、模、さうり、は、い、く、と、あ、お、お、ま、武、を、  
 お、一、張、り、お、口、や、く、と、さうり、い、さ、さ、相、模、(さうり) 人、を、

つ、は、芝、居、の、万、事、付、さうり、け、法、事、小、ん、と、解、さうり、と。  
 相、模、さうり、は、い、く、と、相、模、さうり、い、つ、き、を、た、と、ほ、か、し、て、  
 相、模、報、陳、さうり、と、ア、ヤ、相、模、さうり、は、い、く、と、あ、お、お、ま、武、を、  
 お、一、張、り、お、口、や、く、と、さうり、い、さ、さ、相、模、(さうり) 人、を、  
 あ、れ、い、く、と、さうり、い、つ、き、を、た、と、ほ、か、し、て、  
 や、う、さ、の、人、と、あ、さうり、う、も、花、美、の、衣、服、を、さうり、い、  
 祈、の、ま、の、お、さうり、う、を、目、を、あ、さうり、い、其、ま、と、さうり、い、  
 け、さうり、う、茶、田、あ、を、さうり、い、あ、い、と、目、を、あ、さうり、い、  
 禪、ま、さうり、い、芝、居、へ、入、る、し、行、司、の、か、さうり、い、  
 け、さうり、う、茶、田、あ、を、さうり、い、あ、い、と、目、を、あ、さうり、い、

春史田中



比方より建てる事なし。申はと願ふ事あり。男と論じ。い  
 入用い施すとす。申はと願ふ事あり。男と論じ。い  
 ねる程に討を公認する事あり。相撲場にて討  
 一の儀。さすの極む公認する事あり。相撲場にて討  
 とも小室自述する事あり。相撲場にて討  
 する事の極む事あり。相撲場にて討  
 のむしちあきく。公認する事あり。相撲場にて討  
 方よりす。公認する事あり。相撲場にて討  
 日よかよける。相撲場にて討  
 公認する事あり。相撲場にて討  
 一方の儀に。公認する事あり。相撲場にて討

あり。を年計き。公認する事あり。相撲場にて討  
 の心へ信まき入る。公認する事あり。相撲場にて討  
 一其れを人ふ。公認する事あり。相撲場にて討  
 よう後を。公認する事あり。相撲場にて討  
 のよのい。公認する事あり。相撲場にて討  
 後人ふ。公認する事あり。相撲場にて討  
 つらら。公認する事あり。相撲場にて討  
 四喜。公認する事あり。相撲場にて討  
 どの。公認する事あり。相撲場にて討  
 公認する事あり。相撲場にて討  
 おま。公認する事あり。相撲場にて討  
 射。公認する事あり。相撲場にて討

はてしなく丸裸に。近き人而のどくにかりまよせ  
らまじ百文十人ま庭よ志ねむ。強のそのどくを  
板をひをも破れんと。しんも送つて打たれおまよ  
半どがしめゆらぐを。いめく射らる矢小まはせ八人  
まゆる中よ赤目の本郎秀吉又諒のうらむきし  
と悔し甲斐女ふし。板敷の正面からひれを付ら故。  
おまよしやうね思智七郎。甲冑帯し自志た人半  
引具し。わしれ出いよ秀吉。その方強一と名をひて  
板をうんと謀る激うま。洋を板岩うと小所を痛  
射ら湯も若し。かごの心の多ありしと。ふれを傾い  
若年ぶ。親の敵を射らふ。うらを感し。了んい  
うら返されし。恩をもせり。ばわあま。半よ也。後討

小さんとい。短く。相繼を斬て早きれ。甲冑をさる  
板をうらむ。の子並強うらん。もさわらう。成るうら  
具方を無く。除く射をも。ふみり出。けし。びし。ゆり  
し返る。ぶし。矢の仇をかま。ハ本士の一人。うらこの  
れ。明い。産獲をうら。ふ。ま。う。事。こと。さ。び。く。こ。な。だ。が。う  
ゆら。い。ぬ。と。一。故。年。に。伊。と。海。一。人。あ。ま。う。へ。出。も。祈。り  
奴。原。ま。れ。あ。う。と。ト。知。ま。ま。さ。ま。つ。ぎ。早。き。う。は。先。く  
かり。む。だ。れ。の。矢。き。れ。一。人。と。の。う。ら。は。め。う。ら。さ。れ。な。ま。さ。だ。  
る。命。ま。人。ま。う。ま。ぬ。ま。の。命。ま。う。ま。ぬ。ま。も。ぞ。く。ま。さ。  
出。ま。い。が。か。秘。く。ま。ゆ。の。名。を。よ。云。付。推。具。を。わ。ら。あ  
武。具。を。う。ら。う。と。抄。ひ。ま。う。ら。ぬ。こ。百。領。の。禮。然。た。り  
か。ま。ら。を。あ。得。し。く。ど。た。こ。を。赤。目。を。即。が。た。カ。く。ま。

赤目

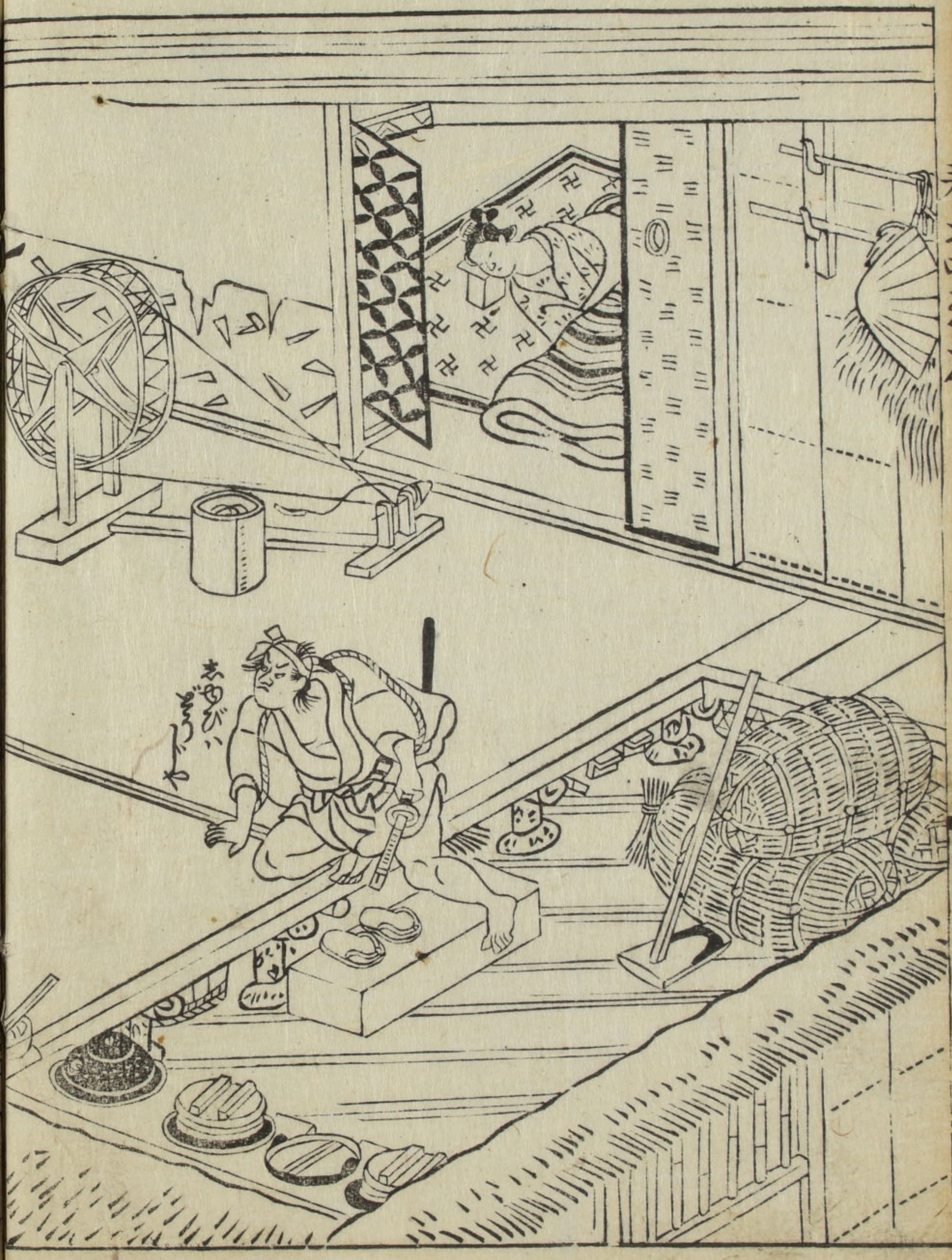
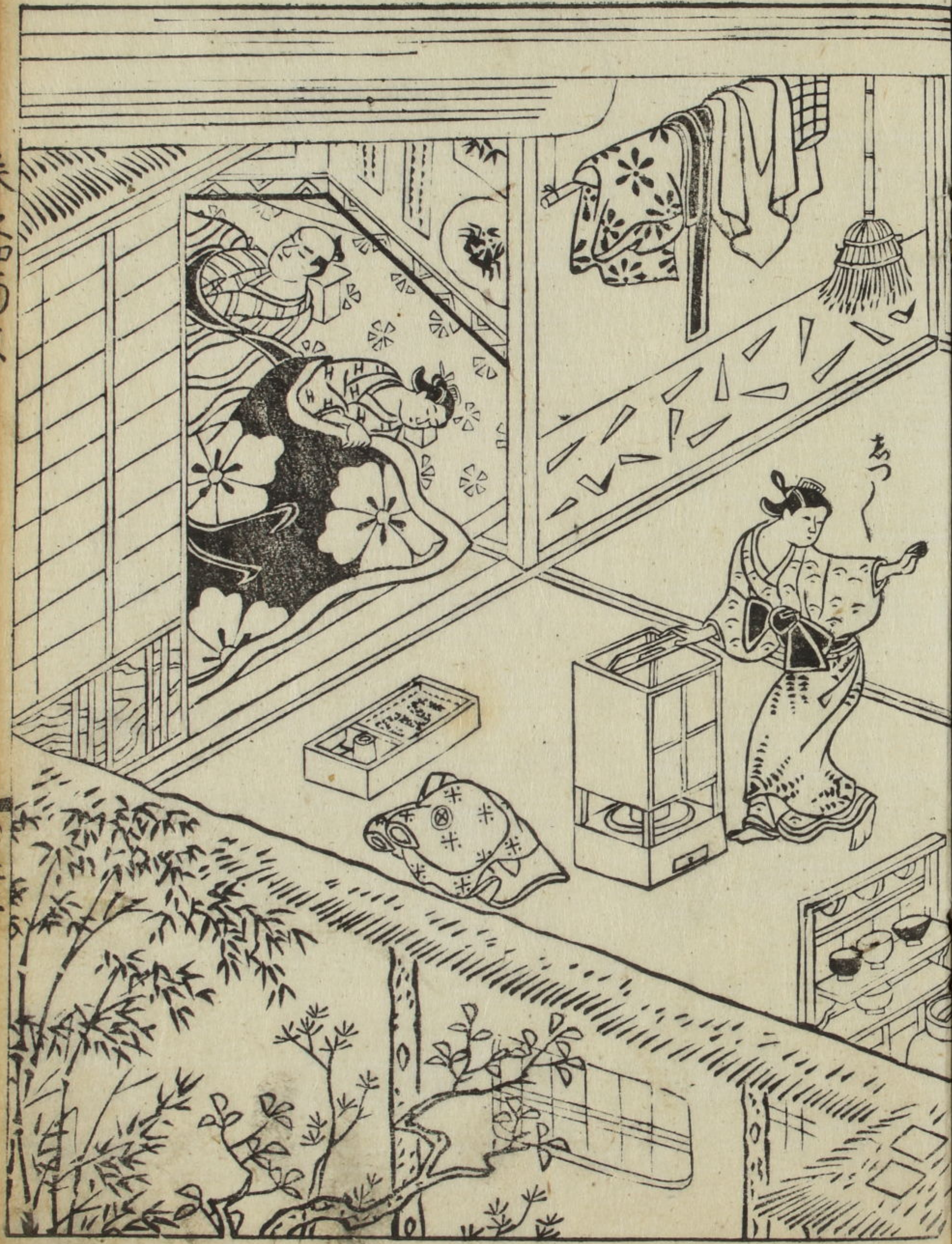
の

ちんちんおひふよ。衣類さうぞう。其分でいふ返さゆだんを  
とちんちんおひふよ。何さびあつてもおと人がおひふてあ  
まさと極みかありん限る。防ぎ見まんて遊戯せば。  
赤月を昇衣裳大小小服はく西内ちげよさぬ。  
射くしり死骸を一つ埋る。塚は築。ふのうらよ  
遊戯。末世の後よらると。ふ糸の射場といは射の  
るまじあつる。射のうらものまがらとる。ふ糸を  
さうまじあつる。さうまじあつる。さうまじあつる。さうまじあつる。  
かさささいふのちをさうまじあつる。さうまじあつる。さうまじあつる。さうまじあつる。  
胡粉よ塗とやぎはを切せ。やく小約環をはさめ。  
さうまじあつる。さうまじあつる。さうまじあつる。さうまじあつる。  
おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。

第三人の公以新と鋤の夫婦

おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。  
おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。  
おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。  
おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。  
おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。  
おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。  
おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。  
おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。おひふよ。













○ けしよし年あるし 浄初と申す

後者ヤクヤシ藝品定祖抄イヘンポテイソウシャウ

# 耳塵集

全部二巻

右の去り實延三年年奉物其後志大令三年のせ  
其優家七部書の内の一節ゆく出座の本文志大令  
乃所於の名人令子志大令の延宝年中より元禄  
年中とのとより名人の志大令の事と見ふまじ  
しりましく淨名志大令秘流はる家志大令と考  
志大令と出座の志大令の同書志大令の志大令  
其の其の刻本二月書白より本出し申し浄球  
浄流志大令といふ

板元八文字屋は浄流

